

# 地震一口メモ No. 156

## 大阪府付近の活断層とその長期評価について

### ～中央構造線断層帯～

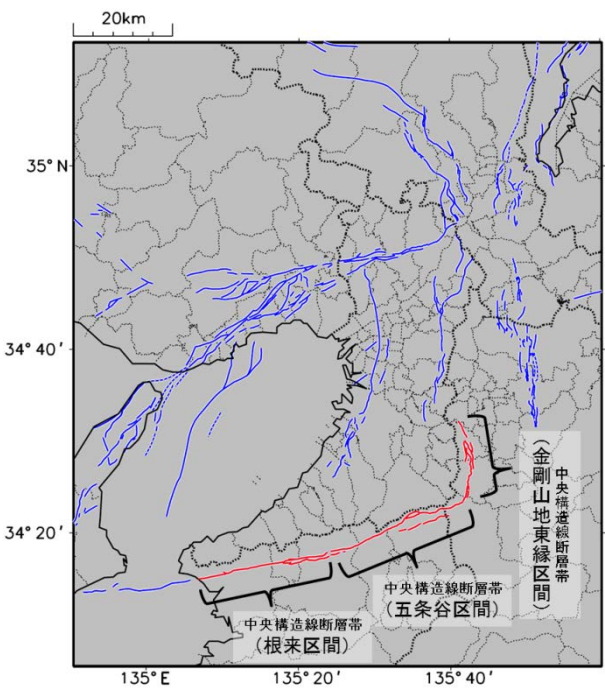
以前、地震一口メモ No. 126～128<sup>\*1</sup>で、大阪府付近の活断層とその長期評価について紹介しました。その際に取り上げた活断層の一つである「中央構造線断層帯」について、地震調査研究推進本部（以下、地震本部）は、これまで行われた調査研究成果に基づいて諸特性を再評価し、その結果を平成29年12月19日に公表しました。

※1 <http://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/hitokuchi.html>

中央構造線断層帯は、奈良県香芝市から五條市、和歌山県和歌山市、淡路島の兵庫県南あわじ市の南側の海域を経て、徳島県鳴門市から愛媛県伊予市まで四国北部をほぼ東西に横断し、伊予灘に達しています。断層はさらに西に延び、別府湾を経て大分県由布市にいたる全長約444kmの長大な断層帯です。今回の再評価では、過去の活動時期や断層の形状等の違い、平均的なずれの速度などから、全体が10の区間に分けられました。大阪府周辺としては、下図のように、東から西へ「金剛山地東縁区間」、「五条谷区間」、「根来区間」の3つがあります。各区間の長期評価は下表のとおりです。「地震後経過率」や「地震発生確率」などの用語の説明、またこれらがどのように推定されるのかは地震一口メモ No. 126～128<sup>\*1</sup>で紹介していますので、ご覧ください。

陸域の活断層において地震が発生すると、震源の近くでは緊急地震速報が間に合わないことがあります。このため、突然の揺れに十分に身構えることが難しい場合を想定した事前の備え<sup>\*2</sup>がとても大切です。

※2 建物の耐震補強、家具の固定、水や食料等の備蓄、避難場所の確認など。



左図 地震本部の長期評価による主要活断層帯（赤線、青線）  
右表 大阪府付近の中央構造線断層帯 各区間の長期評価

#### 中央構造線断層帯【金剛山地東縁区間】の長期評価

最新の活動	1世紀以後、3世紀以前 ○
平均活動間隔	約6000～7600年 ○
地震後経過率	0.2-0.3
30年以内の地震発生確率	ほぼ0% 信頼度 <sup>a</sup>
想定される規模	M6.9程度 ○

#### 中央構造線断層帯【五条谷区間】の長期評価

最新の活動	約2200年前、7世紀以前 ○
平均活動間隔	不明 —
地震後経過率	不明
30年以内の地震発生確率	不明
想定される規模	M7.3程度 ○

#### 中央構造線断層帯【根来区間】の長期評価

最新の活動	7世紀以後、8世紀以前 ○
平均活動間隔	約2500～2900年 ○
地震後経過率	0.4-0.6
30年以内の地震発生確率	0.007%～0.3% 信頼度 <sup>a</sup>
想定される規模	M7.2程度 ○

データの相対的な信頼性 地震発生確率の信頼度 ◎: 高い, ○: 中程度, △: 低い  
高 a b c d 低

地震本部の主要活断層帯の長期評価より作成

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/major\\_active\\_fault/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/)